

はじめに

原子力発電所の運転停止に伴い、関東、関西地区の電力供給不足が懸念されている中、県内の家庭での節電への取り組み状況を把握するため、アンケートを行った。以下はその結果である。

アンケート実施内容	
調査対象	県内の個人
調査方法	調査票を伊予銀行の店頭で配布し、郵送で回収
調査時期	2011年7月20～29日
回答状況	配布数 1,000 先 有効回答数 595 先 有効回答率 59.5%

【アンケート実施内容及び回答者の属性】

回答者の属性		
性別	男性 24.8%	女性 75.2%
年齢	20代 13.7%	30代 15.5%
	40代 22.4%	50代 23.7%
	60代 15.7%	70歳以上 8.5%
居住地	東予 29.6%	中予 51.5% 南予 19.0%

四捨五入の関係で合計が100%とならないことがある。以下同様

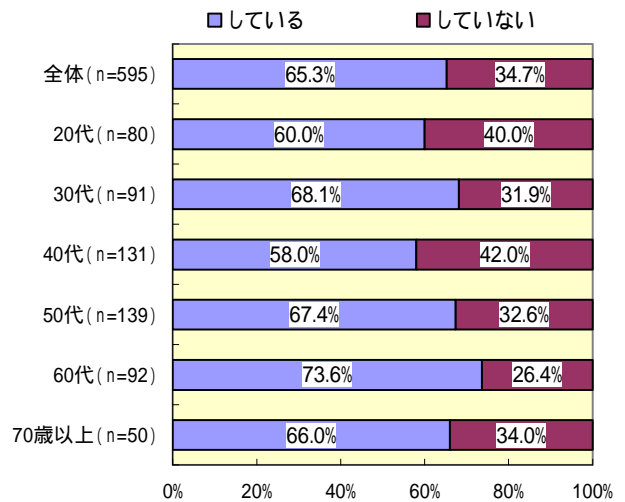
1. 節電への取り組み状況

県内の家庭において、今年の夏より新たな節電をしているかどうか尋ねたところ、63.3%が「している」と回答した。県内においても節電への取り組み意識が高まっていることがうかがえる。

ちなみに、新たな節電をしていない人に理由を尋ねると「従来より節電には十分取り組んでいる」との回答が半数を占めており、県民の8割以上が何らかの節電に取り組んでいることがわかった。

年代別にみると、60代の取り組みが73.6%と高く、40代の取り組みが58.0%と低くなっている。

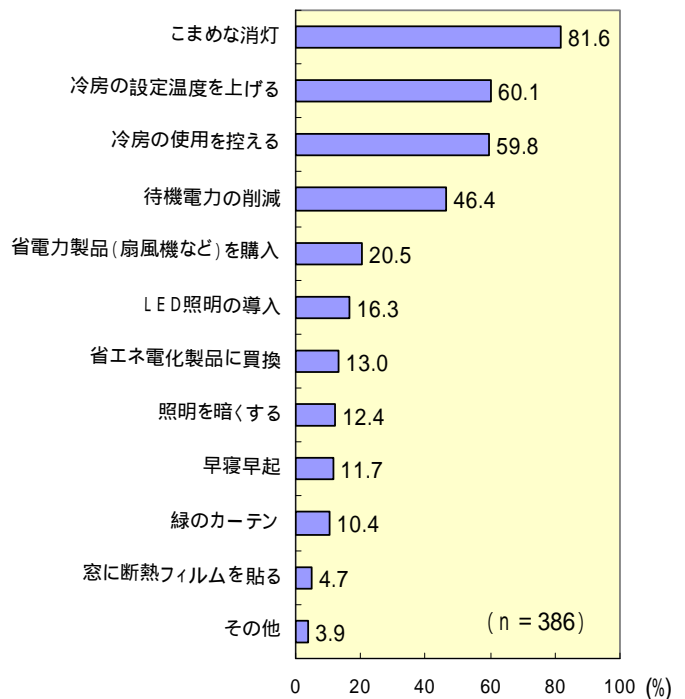
図表1 新たな節電をしているかどうか



2. 主な節電対策

新たな節電を「している」と回答した人に主な節電対策を尋ねたところ、「こまめな消灯」、「冷房の設定温度を上げる」、「冷房の使用を控える」などの対策が多くみられ、身近なことから実施していることがうかがえる。2割程度ではあるが「省電力製品(扇風機など)の購入」や「LED照明の導入」などの消費もみられた。

図表2 主な節電対策(複数回答)



3. 節電のための費用支出状況

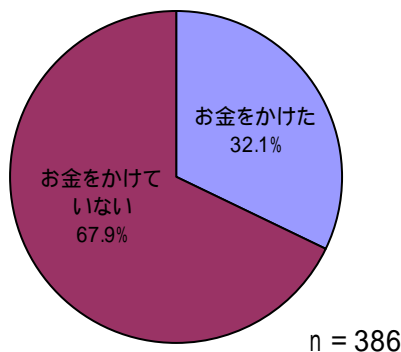
県内の家電量販店からは「省エネタイプのエアコンの売上が伸びている」「扇風機の品薄状態が続いている」「LED電球の売上が倍増した」などの声が聞かれた。

新たな節電をしている人に対して、節電のためお金をかけたかどうか尋ねたところ、32.1%の人が「お金をかけた」と回答した

「お金をかけた」と回答した人に、その金額を尋ねたところ、平均 46,451 円となった。

今後この暑さが続けば、消費はさらに増えることが予測される。

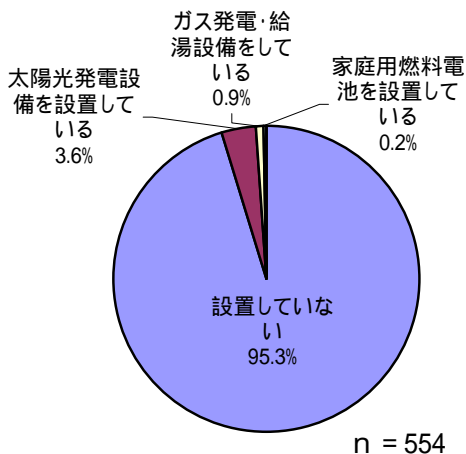
図表3 節電のため費用支出状況



4. 自家発電設備の設置状況

太陽光発電などの自家発電設備の設置状況を尋ねると、「設置していない」が95.3%となった。

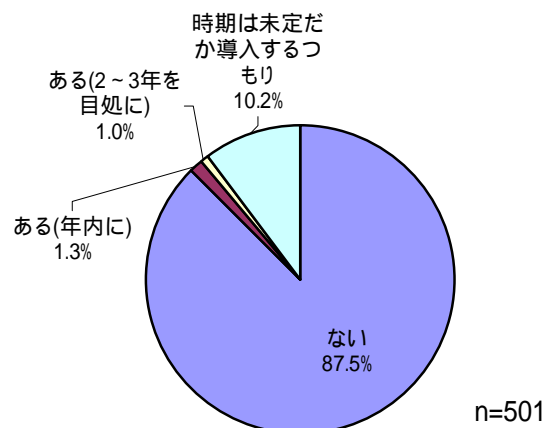
図表4 自家発電設備の設置状況



5. 自家発電の導入意向

自家発電設備を「設置していない」と回答した人に、今後の導入意向を尋ねたところ、「2～3年以内に購入したい」と「時期は未定であるが購入したい」を合わせ、10%強の家庭で導入を検討していることが分かった。

図表5 自家発電の導入意向



6. 今後の節電への取り組み

今後の節電への取り組みについて尋ねたところ、7.6%の人が更なる節電対策を講じていこうとし、「続けていきたい」と合わせると9割程度が節電を続けていこうと回答している。

今後も、県内での節電への取り組みは続いていくものと考えられる。

図表6 今後の節電への取り組み

